

森林吸収源インベントリ情報整備事業ブロック別講習会 西日本ブロック(九州)

開催日 2012年7月9日(月)

場所 熊本県熊本市金峰山峠の茶屋付近(調査地点コード 430155)

講師 大貫〔森林総研本所〕、吉永・石塚・稲垣・釣田〔森林総研九州支所〕

● 概要

西日本ブロックのうち中国、九州を担当する、熊本県森林組合連合会の担当者8名を対象に実技講習会を実施した。講習会当日の天気は晴れで気温が高い中で作業が行なわれた。

試験地はミカン畑の上方にあるヒノキ林であり、道路から近い位置にあった。間伐後時間が経っていたようで直径の大きなイヌビワを主とする広葉樹と混交するような状態であった。当該調査地点はカテゴリBの調査地点で炭素蓄積量調査は調査に含まれていなかったが、講習会という目的であったため炭素蓄積量調査も行われた。

午前中は東西、南北方向のラインを確認後、N地点において炭素蓄積量調査から開始した。参加者は6月の全体での事業講習会が初めての調査講習であり、手順を確認しながら試坑の準備、整形、撮影をおこなった。適宜細かい注意点がアドバイスされた。その後、記載とサンプリング練習を行なった。堆積有機物はサンプリング時期によって堆積状態や分解段階が変わることなど、注意点が説明された。物理性、化学性サンプリングに必要な広さや深さについて、実際の作業での効率的な動き方と併せて説明が行なわれた。調査地点は20cm以深でレキ量がかかなりの割合を占めていたことと6月の講習会でブロックサンプリングの講習がされなかったことから、ブロックサンプリングの講習がおこなわれた。ブロックサンプリング時の注意点として実際に掘りこられたサイズの記載が重要であることが説明された。

昼食後、中心地点での写真撮影から本来カテゴリBに必要な調査項目の実習を開始した。4方向の写真撮影後、枯死木調査を進めた。試験地はヒノキの根株が比較的多く存在し、ラインインターセクト法による調査でかからない根株を多く記録する必要があった。高さが1.5mに近い折損による根株が存在し、上端の位置がどこかという質問があったが、折損面の平均的な箇所が該当する旨が説明された。

残りの土壌調査地点は、E地点が林道上にあったため、SとWの2点の試坑を時間に余裕があるメンバーが準備した。しかし、最終的に時間が足りなかったためサンプリングは行なわず、整形と断面記載に置ける注意点について説明された。

作業は16:30に終了した。

参加者のうち、事前にマニュアルを熟読していた担当者が限られており、逐一注意点を説明する必要があった。実際の調査では現場でマニュアルを確認するのは難しく、事前にマニュアルの細かい部分まで参照しておく必要性が強調された。

